



ノルウェーで、スヌースが喫煙の代わる嗜好品になった経緯:消費者による革命と製品イノベーション

はじめに

隣国のスウェーデンは、たばこハームリダクションによって紙巻たばこ使用を根絶できる可能性を示し、世界的に最も知られているケーススタディの一つとなっている。しかし、ノルウェーでも、安全なニコチン製品の使用が劇的に増加したことで喫煙率の低下がみられた。スヌースは現在、ノルウェーで最も普及しているたばこ製品であるが、本資料では、その経緯を辿っていく。

ノルウェーにおける喫煙の歴史とは?

ノルウェーでは16世紀からたばこが吸われているが、ⁱ たばこによる喫煙が広まったのは1900年代初頭になってからである。ⁱⁱ ノルウェーにおける喫煙率のピークは、男性は1950年代後半の65%、女性は1970年の37%だった。ⁱⁱⁱ

しかしながら、ノルウェーでは非燃焼性たばこにも長い歴史がある。その最も顕著な例がスヌースで、200年以上もの間で使用されてきた経口たばこ製品である。スウェーデン語で「嗅ぎたばこ」を意味する言葉にちなんで「スヌース」と名付けられ、挽いたたばこ葉を塩と水で混ぜて作られる安全なニコチン製品である。食品グレードのたばこ煙の香りやその他の香料が含まれることもあるが、ポーション・スヌースと呼ばれる小さなティーバッグのような袋状のものか、そのまま上唇の下に挟んで使用する。

スヌースはたばこ成分を燃焼しないため、喫煙に伴う多くのリスクを回避できる。スヌースには、たばこに含まれる主要な発がん物質の一つで、たばこ特有のニトロソアミンなどの紙巻たばこの煙に含まれるさまざまな毒素の含有量が低く抑えられている。^{iv}

スヌースは第二次世界大戦以降、ノルウェーで一般的に最も使用されている無煙たばこだが、それ以前は、嗜みたばこが最も好まれたたばこ製品で、市場シェアのピークは60%に達していた。^vスヌースは1992年以降、スウェーデンを除くEU全域で禁止されているが、EU加盟国でないノルウェーでは合法である。

喫煙はノルウェー人の健康にどのような影響を与えてきたか?

50年以上にわたって、たばこの使用量は減少しているにも関わらず、2015年調査によると、ノルウェーでは70歳未満の早期死亡の20%は、依然として喫煙によるものであることが明らかとなった。^{vi} 同年の別の調査では、たばこに関連した疾病によって、毎年約6,300人が死亡していると推定されている。^{vii} ノルウェーでの2009年の35歳以上の死者のうち、約13%がたばこの喫煙による



とされる。^{viii} また、男性の肺がんによる死亡率は、2011 年以降で減少しているが、女性の肺がん死亡率は 2013 年から上昇し、^{ix} 2018 年にピークに達した。^x また、ある調査では、喫煙しない女性であれば、ノルウェーでは10 件中 8 件以上の肺がん症例を回避できた可能性があることも明らかとなつた。^{xi}

ノルウェーで、たばこ製品の使用に対して対策してきたことは？

1960年代半ば、ノルウェー議会は喫煙による健康被害を軽減するための方策の検討を開始した。これにより、1975年にノルウェーたばこ法が施行され、それ以降のノルウェーは、たばこ規制政策において主導的な役割を果たしてきた。^{xii} 実際、ノルウェー保健局が運営するウェブサイトでは、「ノルウェーはたばこ規制が厳しい国と考えられている」^{xiii} と述べており、たばこ規制の厳格さにおいては、欧州でトップ5にランクされている。^{xiv}

1975年施行のこの法律では、すべてのたばこ製品に健康に関する警告を義務付け、たばこ製品を購入できる年齢制限を16歳以上とした。この法律により、ノルウェーはたばこ製品の広告を禁止した最初の国の一つとなった。^{xv}

1988年に、ノルウェー議会はたばこ法に新たな条項を可決し、公衆が立ち入る場所と2人以上が従事する職場での喫煙を禁止した。^{xvi} その翌年には、スヌースを除く、新規のたばこ・ニコチン製品の輸入・販売を全面的に禁止した。その後数年間で、レストラン、バー、カフェでの喫煙に対する規制が導入され、これらの場所の3分の2でしか喫煙は認められなくなった。一方で、スヌースを含むたばこ製品のたばこ法は強化され、購入できる年齢は18歳以上に引き上げられ、フリーダイヤルの禁煙ホットラインも開設された。

そして2004年には、ノルウェーはアイルランドに次いで、全国レベルで喫煙禁止を導入した世界で2番目の国となった。これにより、職場と公共の場の双方での喫煙が禁止されたが、^{xvii} 食事を提供しない一部のプライベートクラブは例外であった。^{xviii} さらに、電子たばこは現在、喫煙と同様に規制対象であるため、屋内での使用も禁止されている。^{xix} ノルウェーはまた、2005年に発効したたばこ規制枠組条約 (FCTC) を批准した最初の国でもある。^{xx}

2010年以降、販売所ではたばこ製品を陳列できなくなり、2018年にノルウェーは、スヌースに無地パッケージ規制を導入した最初の国となった。^{xxi} この法律は、紙巻たばこを含むすべてのたばこ製品に適用され、メーカー固有のロゴや色調の使用が禁止されている。その代わりに、すべてのたばこ製品のパッケージは標準化された色調となり、ブランド名は一般的な色調やスタイルで表記されなければならない。^{xxii} スヌースを含むすべてのたばこ製品は、健康に関する警告も記載しなければならない。^{xxiii}

ノルウェーで入手できる安全なニコチン製品とは、どのようなものか？

スヌースは合法的に購入が可能だが、安全なニコチン製品のすべてをノルウェーで手に入れることができるわけではない。現在、「伝統的なたばこ、またはニコチン製品」とされるもの以外の製造または持ち込みは違法である。この場合の製品とは、紙巻たばこ、葉巻、シガリロ、喫煙用たばこ、嗜みたばこ、および前述のスヌースを指す。^{xxiv}

実際、新しいたばこ製品やニコチン製品はすべて、販売前にノルウェー保健局の承認を得なければならない。^{xxv} 本稿執筆時点では、ニコチンパウチや加熱式たばこ製品の製造業者から保健局への申請は数件ほど提出されているが、未だ承認されておらず、ノルウェーでは事実上禁止されて

いる。^{xxvi}ニコチンパウチに関する申請は、若者の興味を引く可能性があるという懸念から却下された。^{xxvii}しかしながら、奇妙な法律上の欠陥があり、少量のたばこを含むニコチンパウチであれば、通常は輸入が禁止されている規則を回避できる。^{xxviii}こうしたパウチは、スヌースの販売を許可するノルウェーの既存の法律の適用を受けるため、合法的に購入が可能である。

電子たばこを巡る状況は複雑である。ノルウェーでは現在、企業によるニコチン含有電子たばこ製品の輸入、製造、販売は禁止されており、^{xxix}1989年に制定されたニコチン・たばこ製品の新規販売を禁止する規制に従っている。^{xxx}ノルウェー議会は、2016年にニコチン入り電子たばこ禁止解除を決議し、ノルウェーがEUのたばこ製品指令 (TPD) を導入するのと並行して施行される予定だったにもかかわらず、現在も状況は変わっていない。今日まで実施が延期されているのは、TPDを欧州経済域 (ノルウェー、アイスランド、リヒテンシュタインおよびEU間の域内市場関係に関する協定) に組み込むための交渉が必要だったためだが、この交渉はまだ行われていない。新しいたばこ・ニコチン製品の輸入・販売に対する包括的な禁止措置は、2021年7月に表面上は解除され、主にTPDの第19条に基づく承認制度に置き換えられた。しかし、これは暫定的な移行措置であるため、ニコチンを含む電子たばこについては禁止が継続された。^{xxxi}

こうした状況は2025年になって一変し、TPDの実施に伴い、ニコチンを含む電子たばこの販売を合法化する新たな規制が施行される予定である。^{xxxii}、^{xxxiii}この法律の一環として、製造業者と輸入業者は、ノルウェーの消費者へ販売する6か月前にノルウェー医薬品庁に製品を登録する必要がある。^{xxxiv}この変更によって、電子たばこ製品にも標準化されたパッケージが求められることになった。

ノルウェーでは、ニコチン電子たばこが禁止されているにも関わらず、ニコチンを含まないデバイスや電子リキッドを販売する国内店舗が比較的少数ではあるが存在する。最近になるまで、フルーツ、ベリー、コーヒー、デザートなど、幅広いフレーバーのニコチンフリー電子たばこを販売していた。しかし、2024年7月以降、たばこ被害法の改正により、たばこ以外のフレーバーを含む電子たばこの販売は禁止され、ニコチン電子たばこが合法化されたとしても、この法律は適用される。電子たばこ利用者の約80%は禁止されているフレーバーを使用しているため、これは重要な意味合いを持つ。^{xxxv}

しかしながら、ノルウェー人が娯楽目的でニコチン電子たばこを使用することができない代わりに、禁煙ツールとしてニコチン電子たばこを使用する場合は、現時点では、個人使用であれば、こうした製品を海外から合法的に輸入できることには留意する必要があり、^{xxxvi}また、ノルウェーで電子たばことして使用される電子リキッドの80%は、海外の小売業者やインターネットによって輸入されていると推定されている。^{xxxvii}電子たばこを使用している約15万人のうち、97%は現在または過去に喫煙していたと報告されている。^{xxxviii}ノルウェー公衆衛生研究所の他の調査によると、2017年から2022年の間に、16歳から74歳までの0.9%が日常的に電子たばこを使用し、2%は電子たばこを時々使用していることが明らかとなった。^{xxxix}

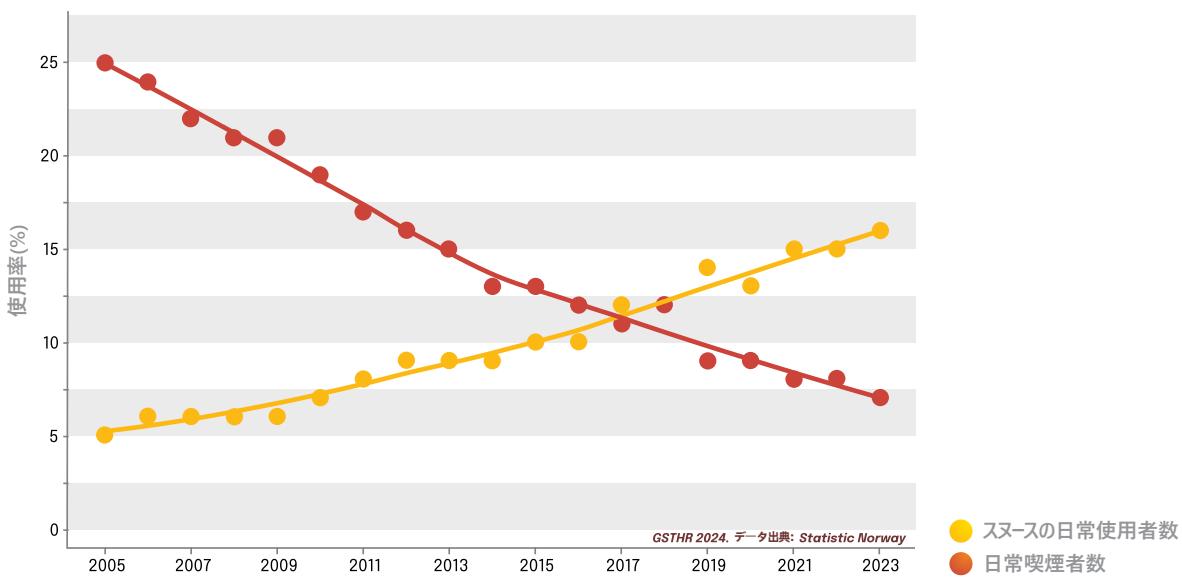
成人のどれくらいがスヌースを使用しているのかと、どのように喫煙率は変化したのか？

ノルウェー統計局の統計によると、過去数十年間におけるスヌース使用の増加は、同国における喫煙率の劇的な低下と同期している。2023年には、16歳から74歳までのノルウェー人のうち、日常的に喫煙する人はわずか7%で、16歳から24歳では3%に過ぎなかった。^{xl}また、55歳から64歳の女性の12%、同年代の男性の14%が依然として喫煙しているが、若いノルウェー人の間では喫煙はほぼなくなっている。2023年には、16歳から34歳の女性でわずか2%、16歳から24歳の男性でも4%が日常的に喫煙していた。

これを歴史的に紐解いていくと、40年前の成人による日常的な喫煙率は6倍多く、当時はほぼ半数が喫煙していた。1973年には、16歳から74歳までのノルウェー人の42%が日常的に喫煙し、25歳から34歳では50%だった。この割合は、45歳から54歳までの男性では59%、25歳から34歳までの女性では46%まで上昇した。

スヌースの使用状況に着目してみると、過去20年間で大きな変化がみられる。2005年には、16歳から74歳までのノルウェー人の5%がスヌースを日常的に使用していた。2023年には、この年齢層のスヌース使用率は3倍以上に増加し、16%が日常的に使用している。現在では、紙巻たばこの2倍（16%対7%）の人がスヌースを使用していることになる。特に25歳から34歳の男性では34%、同年齢の女性では23%が使用している。

ノルウェーにおける喫煙率とスヌース使用率(2005~2023年)



2017年が、スヌースの日常使用者が紙巻たばこの喫煙者を初めて上回った年となったことは注目に値する。^{xlii} 2017年には、16歳から74歳までのノルウェー人のうち、紙巻たばこを日常的に吸う人は11%だったが、スヌースの日常使用者は12%だった。紙巻たばことスヌースは併用されるが、非常に稀であることが分かっている。ある調査によると、男性の6.8%が双方を同時に使用していたが、日常的に双方を消費していると回答したのはわずか1%だった。^{xlii}

なぜ、ノルウェーではスヌースが好まれているのか？

1960年代に、^{xliii} 米国公衆衛生局長官と英国王立内科医会が喫煙と肺がんの関連性を示す報告書を発表したことによって、喫煙の危険性に対する認識は世界中に広まった。ノルウェーでは、さまざまなかたばこ規制措置を早期に導入したことにより、1970年代以降、喫煙に対する社会文化的偏見が進み、喫煙に対して敵対的な環境がより一層形成された。そして、1980年代から1990年代には、喫煙場所を制限する法改正が相次ぎ、たばこよりも安全で受け入れやすい代替品として、新たなたばこ製品が登場する機会が生まれた。

ノルウェーではスヌース使用の歴史が長く、燃焼式たばこの代替品となる可能性を秘めていたが、1990年代後半に有害性の少ない製品が利用可能となって初めて、魅力的な選択肢となり始め、この時期に低ニトロソアミンのスヌースが登場したことで、スヌース使用が著しく増加した。こうした

変化はまず男性に見られ、その後に女性にも広がった。インゲボルグ・ルンドとカール・ルンドによる2014年の研究論文では、スヌースの使用が増えるにつれてたばこの売上が減少したものの、たばこの全体の消費量は増加していないことが明らかとなり、「スヌースの使用とたばこの喫煙には、強い逆相関関係があり、因果関係がある可能性がある」と、示唆されている。^{xliv}

新たなスヌース製品は、たばこ特有のニトロソアミンや多環芳香族炭化水素などの主要な発がん性物質の含有量が低いばかりでなく、市場に出回る製品の種類にも変化があり、従来のバラ売りから、今ではお馴染みとなっているパウチ入りスヌースが主流となった。^{xlv} 新形状のスヌースは唾を吐く必要がなく、利用者にとって便利となり、さらに幅広いフレーバーが追加された。これにより、喫煙者だけでなく、たばこを吸ったことがないけれども、ニコチンを使用してみたい人にとっても、魅力的な製品となった。^{xlvi} 実際、ルンド&ルンドによる2014年の論文は、「スヌースの市場シェア拡大と、紙巻たばこ市場のシェア減少は、本来であれば喫煙を始めていたであろう“たばこ志向”的若者を、スヌースが引きつける可能性がある」と示唆している。^{xlvii} また別の論文では、異なる見方として、「スヌースを利用できることによってたばこへの嗜好を変化させ、特に男性の若者が喫煙し始めることを低下させた可能性がある」としている。^{xlviii} スヌースパウチの人気は、2020年までにスヌース市場のわずか5%まで低下し、2005年の54%から大幅に減少した。^{xlix}

スヌースは1970年代に施行された、たばこ広告の禁止対象になっていたにも関わらず、スヌースの成長がマーケティングとは一切関連性がなかったことは注目に値する。ある研究では、スヌースが、「従来の紙巻たばこの現実的な代替品として登場したのは、燃焼やたばこの煙に含まれる有害物質を伴わずにニコチンを摂取できることや、禁煙場所で使用できること、価格競争力があること、そして有害性を軽減できる可能性が認識されていたためである」と示唆している。さらに、「スヌースは、禁煙の手段、たばこ好きの若者の新たな世代が喫煙を始める前の代替品、そして完全に禁煙できない、あるいは禁煙を望まない喫煙者にとって紙巻たばこの代替品、という3つのメカニズムを通じて、紙巻たばこ消費量の減少に貢献してきた」としている。^{li} 喫煙が制限または禁止されている場所では、喫煙者がスヌースを控えめに使用することで、禁断症状を緩和し、最終的に紙巻たばこからスヌースへ完全に切り替えることも促すことになった。

スヌースが入手しやすくなつたことで、「ニコチン依存者に有害性がより少ない形態への移行を促し」、喫煙率を低下させた可能性があると、別の研究が示唆している。^{lii} この主張は、「スヌースが禁煙に広く使用され、また好まれた方法であること、そしてスヌース使用は医療用ニコチン製品と比較して禁煙の成功率を高める可能性があることを示唆する調査結果によって裏付けられている」としている。さらに、ノルウェーにおけるスヌース使用者の最大となる集団は、かつて喫煙していた人々であり、他の研究では「ノルウェーでは、スヌースへの切り替えが禁煙に最も効果的であり、効果的な方法である」ということも明らかになっている。

スヌースは、燃焼式の紙巻たばこと同程度のニコチンを摂取できるため、喫煙者にとって現実的な選択肢とみなされている。^{liii} 若者を含む多くの人々にとって、スヌースは紙巻たばこ特有の臭いを気にせずにニコチンを摂取できるため、紙巻たばこよりも魅力的な選択肢と成りうる。また、スヌースは屋内で使用できるが、喫煙はバーやレストランの外でしかできないため、ノルウェーでの恒常的な寒さにさらされるのを避けるのにも役立つ。

前述のように、スヌースの使用は喫煙者の支出を削減することにもつながる。スヌース1缶は約80クローネだが、たばこ20本入りは約140クローネである。^{liv} スヌース価格が優位なことの一因には、ノルウェーの多くのスヌース使用者が、価格が安いスウェーデンで購入していることに少なからず起因している。このことは、ノルウェー政府が両国間の価格差を縮小し、ノルウェーでの販売を促進する

ため、スヌースに課される税金を2021年に25%へ引き下げるよう圧力をかけることにつながっている。^{lv}

そのため、ノルウェー政府はスヌースをより手頃な価格とするための積極的な措置を講じてきた。しかしながら、ノルウェー保健当局は、禁煙ツールとしてのスヌースを使用することを勧めず、スヌースは紙巻たばこの安全な代替品ではないと警告してきた背景がある。^{lvii}また、スヌース容器を含むすべてのたばこ製品に無地パッケージを導入したことは、「禁煙社会という長期目標に向けた」より広範な取り組みのさらなる代表例であり、^{lviii} 相対的な有害性に関わらず、すべてのたばこ製品が平等に扱われるようとする取り組みであることにも注目すべきである。また、2018年から2019年までの政府白書には、2021年の目標の1つとして「若者のスヌース使用は増加してはならない」と明記されている。^{lviii}

要点

ノルウェーは現在、欧州全土に広まりつつある多くのたばこ規制法を早期に導入し、喫煙率低下に向けた取り組みで先行していた。喫煙に対する偏見が高まることで、紙巻たばこに代わる新製品が登場する土壤を築き、ノルウェーは長年スヌースと文化的に結びついてきたため、スヌースがその役割を果たす可能性を秘めていた。重要なのは、ノルウェーはEU全体でスヌースが禁止されていることと関係なく、SNPの普及は、より安全で使いやすく、喫煙者にとってより魅力的なイノベーションによってもたらされたことである。安全なニコチン形態へ移行したいという欲求や、喫煙が禁止されている場所でもスヌースが使用できるといったことにより、紙巻たばこからスヌースに切り替える人が増加した。スヌース使用は、ノルウェーの若者の喫煙をほぼ撲滅し、かつて喫煙していた多くの人々を紙巻たばこから遠ざけることにもつながったと考えられる。安全なニコチン製品として広く認知されているにも関わらず、あらゆる形態による喫煙の終焉を強く望むノルウェー政府の承認は得られていない。政府は、スヌースを喫煙用たばことほぼ同様に扱っているが、消費者自らがスヌースに切り替え、自身と周囲の人々の健康を大幅に改善するために、たばこハームリダクションに取り組んでいる。重要なのは、カール・ルンド氏の言葉を借りれば、「ノルウェーで低ニトロソアミンのスヌースが長期にわたって入手可能であることは[...]低リスクのたばこ製品が紙巻たばこと競合した場合に、ニコチン市場にどのような影響が及ぶかを示す好例となる」ということである。^{lix}

- i Larsen, I. F. (1997). [Smoking and art. History of smoking in Norway in paintings]. *Tidsskrift for Den Norske Laegeforening: Tidsskrift for Praktisk Medicin, Ny Raekke*, 117(30), 4418-4421.
- ii Lund, K. E., Lund, M., & Bryhni, A. (2009). Tobaksforbruket hos kvinner og menn 1927-2007. *Tidsskrift for Den norske legeforening*. <https://doi.org/10.4045/tidsskr.08.0248>.
- iii Gram, I. T., Antypas, K., Wangberg, S. C., Løchen, M.-L., & Larbi, D. (2022). Factors associated with predictors of smoking cessation from a Norwegian internet-based smoking cessation intervention study. *Tobacco Prevention & Cessation*, 8, 38. <https://doi.org/10.18332/tpc/155287>.
- iv Schwarzfeld, M. (2010, September 14). *How Snus Works*. HowStuffWorks. <https://science.howstuffworks.com/snus.htm>.
- v Lund, K. E., & McNeill, A. (2013). Patterns of Dual Use of Snus and Cigarettes in a Mature Snus Market. *Nicotine & Tobacco Research*, 15(3), 678-684. <https://doi.org/10.1093/ntr/nts185>.
- vi Wang, H., Naghavi, M., Allen, C., Barber, R. M., Bhutta, Z. A., Carter, A., Casey, D. C., Charlson, F. J., Chen, A. Z., Coates, M. M., Coggleshall, M., Dandona, L., Dicker, D. J., Erskine, H. E., Ferrari, A. J., Fitzmaurice, C., Foreman, K., Forouzanfar, M. H., Fraser, M. S., ... Murray, C. J. L. (2016). Global, regional, and national life expectancy, all-cause mortality, and cause-specific mortality for 249 causes of death, 1980-2015: A systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2015. *The Lancet*, 388(10053), 1459-1544. [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(16\)31012-1](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(16)31012-1).
- vii *Tobacco Control in Norway*. (2023, August 23). Helsedirektoratet. <https://www.helsedirektoratet.no/english/tobacco-control-in-norway>.
- viii Lund, I., & Lund, K. E. (2014a). Lifetime smoking habits among Norwegian men and women born between 1890 and 1994: A cohort analysis using cross-sectional data. *BMJ Open*, 4(10), e005539. <https://doi.org/10.1136/bmjopen-2014-005539>.
- ix Hansen, M., Licaj, I., Braaten, T., Langhammer, A., Marchand, L., & Gram, I. (2019). Smoking related lung cancer mortality by education and sex in Norway. *BMC Cancer*, 19. <https://doi.org/10.1186/s12885-019-6330-9>.
- x Inger Kristin Larsen (Ed.). (2022). *Cancer in Norway 2021* [Cancer incidence, mortality, survival and prevalence in Norway]. Cancer Registry of Norway. https://www.kreftregisteret.no/globalassets/cancer-in-norway/2021/cin_report.pdf.
- xi Hansen, M. S., Licaj, I., Braaten, T., Lund, E., & Gram, I. T. (2021). The fraction of lung cancer attributable to smoking in the Norwegian Women and Cancer (NOWAC) Study. *British Journal of Cancer*, 124(3), 658-662. <https://doi.org/10.1038/s41416-020-01131-w>.
- xii *Tobacco Control in Norway*, 2023.
- xiii *Tobacco Control in Norway*, 2023.
- xiv Joossens, L., Olefir, L., Feliu, A., & Fernandez, E. (2022). *The Tobacco Control Scale 2021 in Europe*. Tobacco Control Scale. <https://www.tobaccocontrolscale.org/>.
- xv Rimpelä, M. K., Aarø, L. E., & Rimpelä, A. H. (1993). The effects of tobacco sales promotion on initiation of smoking—Experiences from Finland and Norway. *Scandinavian Journal of Social Medicine. Supplementum*, 49, 5-23.
- xvi Klepp, K. I., & Solberg, B. (1990). [Effect of the law against smoking at the work place. A study done among employees of the city of Bergen]. *Tidsskrift for Den Norske Laegeforening: Tidsskrift for Praktisk Medicin, Ny Raekke*, 110(1), 22-25.
- xvii *Key Dates in Tobacco Regulation 1962–2020*. (2022, April). ASH. <https://ash.org.uk/resources/view/key-dates-in-tobacco-regulation>.
- xviii *Norway 2023*. (2023). Nanny State Index. <https://nannystateindex.org/norway-2023/>.
- xix Lund, I., & Sæbø, G. (2023). Vaping among Norwegians who smoke or formerly smoked: Reasons, patterns of use, and smoking cessation activity. *Harm Reduction Journal*, 20(1), 35. <https://doi.org/10.1186/s12954-023-00768-z>.
- xx *Tobacco Control in Norway*, 2023.
- xxi Aambø, A. K., Lindbak, R., Edbo, M., & Solbakken, K. (2018). Norway introduces standardised packaging on smokeless tobacco. *Tobacco Induced Diseases*, 16(1). <https://doi.org/10.18332/tid/83826>.
- xxii *Branded Norwegian cigarettes and snus to be consigned to history*. (2018, June 27). WHO FCTC. <https://extranet.who.int/fctcapps/fctcapps/fctc/kh/sl/t/news/branded-norwegian-cigarettes-and-snus-be-consigned-history>.
- xxiii *Norway*. (2024, June 11). *Tobacco Control Laws*. <https://www.tobaccocontrollaws.org/legislation/norway/packaging-labeling/health-warnings-messages-features>.
- xxiv Salokannel, M., & Ollila, E. (2021). Snus and snus-like nicotine products moving across Nordic borders: Can laws protect young people? *Nordic Studies on Alcohol and Drugs*, 38(6), 540-554. <https://doi.org/10.1177/1455072521995704>.
- xxv *Tobacco Control in Norway*, 2023.
- xxvi Dawson, F. (2022, February 9). Changes to Norwegian rules unlikely to have much impact on the market. *TobaccoIntelligence*. <https://tobaccointelligence.com/changes-to-norwegian-rules-unlikely-to-have-much-impact-on-the-market/>.
- xxvii *Tobacco Control in Norway*, 2023.
- xxviii Salokannel & Ollila, 2021.
- xxix *New tobacco and nicotine products—Norwegian Customs*. (2024, August 2). Toll.No. <http://www.toll.no/en/goods/new-tobacco-and-nicotine-products/>.
- xxx *Tobacco Control in Norway*, 2023.
- xxxi *Impact assessment*. (2023). EFTA surveillance authority. <https://www.eftasurv.int/cms/sites/default/files/documents/gopro/E%C3%98S-h%C3%B8ring%20e-sig%202023%20-%20Impact%20assessment%20-%20endelig%20versjon.pdf>.

- xxxii *Norway. Legislation by Country/Jurisdiction.* (2024, June 11). Tobacco Control Laws. <https://www.tobaccocontrollaws.org/legislation/norway/e-cigarettes>.
- xxxiii *Electronic cigarettes (e-cigarettes).* (2024, January 9). Norwegian Medical Products Agency. <https://www.dmp.no/en/manufacturing-import-and-retailing-of-medicines/import-and-wholesaling-of-medicines/electronic-cigarettes-e-cigarettes>.
- xxxiv *Electronic cigarettes (e-cigarettes), 2024.*
- xxxv Lund, K. E. (2021). Hva vil effekten av et smaksforbud på e-sigaretter være? *Forebygging.no. Nasjonal kunnskapsbase og tidsskrift for helsefremmende og rusforebyggende arbeid.* <https://doi.org/10.21340/5bb0-af04>. (Translated from the Norwegian original.)
- xxxvi *New tobacco and nicotine products–Norwegian Customs, 2024.*
- xxxvii I. Lund & Sæbø, 2023.
- xxxviii I. Lund & Sæbø, 2023.
- xxxix Vedøy, T. F., & Lund, K. E. (2023, April 12). *Utbredelse av e-sigaretter/fordampere i Norge.* Folkehelseinstituttet. <https://www.fhi.no/le/royking/tobakkinorge/bruk-av-tobakk/utbredelse-av-e-sigaretter-og-fordampere-i-norge/>.
- xl *Tobacco, alcohol and other drugs.* (2024, January 18). Statistisk Sentralbyrå (Statistics Norway, SSB). <https://www.ssb.no/en/helse/helseforhold-og-levevaner/statistikk/royk-alkohol-og-andre-rusmidler>.
- xli *Snus more used than cigarettes.* (2018, January 18). Statistisk Sentralbyrå (Statistics Norway, SSB). <https://www.ssb.no/en/helse/artikler-og-publikasjoner/snus-more-used-than-cigarettes>.
- xlii K. E. Lund & McNeill, 2013.
- xliii Rutqvist, L. E., Curvall, M., Hassler, T., Ringberger, T., & Wahlberg, I. (2011). Swedish snus and the GothiaTek® standard. *Harm Reduction Journal, 8*(1), 11. <https://doi.org/10.1186/1477-7517-8-11>.
- xliv Lund, I., & Lund, K. E. (2014b). How Has the Availability of Snus Influenced Cigarette Smoking in Norway? *International Journal of Environmental Research and Public Health, 11*(11), 11705–11717. <https://doi.org/10.3390/ijerph11111705>.
- xlv Grøtvedt, L., Forsén, L., Ariansen, I., Graff-Iversen, S., & Lingaas Holmen, T. (2019). Impact of snus use in teenage boys on tobacco use in young adulthood; a cohort from the HUNT Study Norway. *BMC Public Health, 19*(1), 1265. <https://doi.org/10.1186/s12889-019-7584-5>.
- xlvii I. Lund & Lund, 2014b.
- xlviii Lund, K. E., Vedøy, T. F., & Bauld, L. (2017). Do never smokers make up an increasing share of snus users as cigarette smoking declines? Changes in smoking status among male snus users in Norway 2003–15. *Addiction, 112*(2), 340–348. <https://doi.org/10.1111/add.13638>, p. 20.
- xlix Vedøy, T., & Lund, K. (2022). Nicotine Content in Swedish-Type Snus Sold in Norway From 2005 to 2020. *Nicotine & Tobacco Research, 24*. <https://doi.org/10.1093/ntr/ntac006>, p. 2.
- l I. Lund & Lund, 2014b.
- li Grøtvedt, Forsén, Ariansen, Graff-Iversen, & Lingaas Holmen, 2019.
- lii Sæther, S. M. M., Askeland, K. G., Pallesen, S., & Erevik, E. K. (2021). Smoking and snus use among Norwegian students: Demographic, personality and substance use characteristics. *Nordisk Alkohol- & Narkotikatidskrift : NAT, 38*(2), 141–160. <https://doi.org/10.1177/1455072520980219>.
- liii Foulds, J., Ramstrom, L., Burke, M., & Fagerstrom, K. (2003). Effect of smokeless tobacco (snus) on smoking and public health in Sweden. *Tobacco Control, 12*(4), 349–359. <https://doi.org/10.1136/tc.12.4.349>.
- liv *What is snus and why do so many Norwegians use it?* (2021, June 28). The Local Norway. <https://www.thelocal.no/20210628/what-is-snus-and-why-do-so-many-norwegians-use-it>.
- lv *Norway–Tobacco Industry Interference Index 2021.* (2021). Global Tobacco Index 2021. <https://globaltobaccoindex.org/download/1384>.
- lvi I. Lund & Lund, 2014b.
- lvii *Branded Norwegian cigarettes and snus to be consigned to history, 2018.*
- lviii *Public Health Report – A Good Life in a Safe Society* (No. 19 (2018–2019) I–1193 E; White Paper). (2019). Ministry of Health and Care Services, Norway. <https://www.regjeringen.no/contentassets/84138eb559e94660bb84158f2e62a77d/nn-no/sved/publichealthreport.pdf>.
- lix Report of Dr Karl Lund, Norwegian Institute of Public Health (30 January 2017) for the High Court of Justice, Queen's Bench Division. 'The Queen on the application of Swedish Match AB -v- The Secretary of State for Health'. Claim number CO/3471/2016.

たばこの健康被害軽減低減をめぐる世界の状況、またはこのGSTHRブリーフィングペーパーで提起されたポイントの詳細については、info@gsthr.orgにお問い合わせください。

私たちについて: **Knowledge•Action•Change (K•A•C)** は、人権に根ざした公衆衛生戦略として、有害物質の削減を推進しています。40年以上にわたり、薬物使用、HIV、喫煙、性的健康、刑務所における有害物質削減活動に携わってきた経験を持っています。K•A•Cは、**たばこの健康被害軽減低減をめぐる世界の状況 (GSTHR)**を運営し、世界200以上の国と地域におけるたばこ害軽減の発展、より安全なニコチン製品の使用、入手、規制対応、喫煙率や関連死亡率についてマップを作成しています。すべての出版物とライブデータについては、<https://gsthr.org>をご覧ください。

資金調達: GSTHRプロジェクトは、米国の独立非営利団体 (501(c)(3)) である **Global Action to End Smoking** からの助成金によって制作されており、米国の法律により、寄付者から独立して運営することが義務付けられています。このプロジェクトとその成果物は、助成金契約の条件により、財団から独立しています。